

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル 6 階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271
発行人 佐々木 泰
編集人 片岡 伸子

No.692 ★公益社団法人 読書推進運動協議会 定時総会(1~4頁)

公益社団法人
読書推進運動協議会

2025年度 定時総会

外部団体からも役員を迎え 新たな体制で読書推進に取り組むことを再確認



議事進行する野間省伸会長

6月25日(水)午後3時より、東京都千代田区の出版クラブホールにおいて、「公益社団法人 読書推進運動協議会 2025年度 定時総会」が開催された。

野間省伸会長の挨拶のあと、定款第16条の規定により、野間会長が議長席につき、議事を行った。最初に事務局より、今回の出席会員は24名、委任状提出会員は142名、合計166名であり、定款第17条の規定による定足数、総会員の過半数135名を超えたので、総会は成立していることが報告された。

定款第20条の規定により、総会の議事録記名押印者として、野間会長、成瀬雅人常務理事、渡部正嗣理事の3名が指名された。第一号議案は「2024年度

事業報告書および決算報告書」承認の件」。「2024年度 事業報告書」について、齋藤健司事業委員長に代わり、佐々木泰事務局長から報告が行われた。つづいて「2024年度 決算報告書」につ

いて、田仲幹弘財務委員長に代わり、佐々木事務局長から説明が行われた。その後、監事を代表して春井宏之監事が、本決算は公正かつ正確であることを認証するとの監事報告を行った。議長は出席会員に語り、それぞれ全員異議なく承認可決された。

第二号議案は「役員改選」承認の件」。読書推進運動協議会の役員任期は2年であり、本年は改選期にあたる。役員の改選については、従来の構成団体より推薦された候補者に加え、本年4月の公益財団法人の認定等に関する法律の一部改正を受けて、外部から就任いただく18名の役員候補者名簿が議長より提示された。役員18名中、新任は植松貞夫、野口武悟、飯窪成幸、池辺昌和、櫻井秀美、島塚尚子の6名、退任は宮原博昭、設楽敏一、秋本敏、竹村和子の4名で、ほかは再任。定款第22条の規定に従い、議長は以上の推薦について出席会員に語り、全員異議なく原案通り承認可決された。



春井宏之監事による監査報告

第三号議案は「2025年度事業計画書および収支予算書」報告の件」。「2025年度 事業計画書」と「2025年度 収支予算書」については、佐々木事務局長から説明があり、いずれも、2024年度第3回理事会で承認されたことが報告された。議長は出席会員に語り、全員異議なく承認された。野間議長による挨拶で総会は閉会したが、その後、別室にて2025年度第2回理事会が開催され、定款第32条により新役員の役職が選定された。理事会終了後に総会会場で、新役員の役職分担が議長より報告され、すべての議事を終了した。

■挨拶

公益社団法人
読書推進運動協議会

会長 野間 省伸



本日はお忙しい中、公益社団法人読書推進運動協議会、2025年度定時総会にご出席いただき、ありがとうございます。

読書推進運動協議会が展開する主要な事業であります。昨春秋の「読書週間」の行事主催者数は、1992と過去最高を記録いたしました。本年春の「こどもの読書週間」においても、各地の図書館などで「読み聞かせ」や「おはなし会」などバラエティに富んだ内容の催事が活発に行われております。

また、読書推進運動協議会に事務局を置く「子どもの読書推進会議」が、主催団体のひとつとして参加しております。「上野の森親子

ブックフェスタ2025」は、今年も5月4日と5日の2日間開催いたしました。多くの出版社が出展し、家族連れに加えインバウンドの来場も多く、来場者数、売上とも前年を大きく上回りました。

各出展ブースやイベントスペースでは著者サイン会なども多数行われ、リアルに紙の本を手に取り、人とふれあうことの楽しさ、すばらしさをあらためて実感いたしました。

社会の急速なデジタル化、産業構造の変化、深刻な少子化など社会環境が大きく変わり、読書や出版業界は多くの課題に直面しています。しかしながら人間は、本を読むことで、創造性や想像力を育むことができます。読書が持つ意味と価値は不変のものであると考



総会疑似終了後の理事会

え、読書推進運動協議会は、従来にもまして、すべての方に本に親しむきっかけを提供してまいりたいと存じます。

今後ともみなさまのご支援とご協力をお願いしまして、ご挨拶といたします。



2024年の「読書週間」標語・ポスターは、SNS上でも話題となった

■2025年度 事業方針

各事業の認知度を高め
着実に読書推進を呼びかける

読書推進運動協議会は、読書活動の推進と出版物の普及により、わが国文化の発展と向上に資することを目的として1959年に設立されました。

現在、読書推進活動は、全国で活発に行われております。春の「こどもの読書週間」、秋の「読書週間」における行事主催者数も上昇傾向であり、読書会、読み聞かせ会、ワークショップなどバラエティあふれる活動が各地で展開されています。本を介して人と人が直接対面し価値観を共有するという、読書推進運動の基本が、デジタル全盛の時代にあらためて注目されています。

「こどもの読書週間」「読書週間」の標語は、会員社のみならず、全国の図書館、そしてホームページで一般の方々にも呼びかけて募集しています。とくに販売会社や出版社には事業委員として深く関わっていただき、それぞれの社員の方からたくさん応募をいただいています。2025年春の「こどもの読書週間」の標語は「あい

ことばはヒ・ラ・ケ・ホ・ン！」に、秋の「読書週間」の標語は「こころとあたまの、深呼吸。」に決定しました。ここ数年は、図書館だけでなく、行政や教育現場のかがたからポスター画像の使用について、問い合わせが増えてきました。2024年度に開設した読書推進運動協議会の「X」も効果的に活用しながら、事業の認知度をより高めていくようにいたします。

「読書週間」は、ポスターのイラストも一般から公募しており、2016年からは標語にあわせたイラストを公募し、標語と親和性の高い力作が多く寄せられています。また「こどもの読書週間」のポスターにつきましては、2023年より子どもたちに人気のある新進の絵本作家ユニット、ザ・キャビンカンパニーさんを起用し好評を得ております。

私ども読進協の事業の基盤は、永年にわたって構築してまいりました。読書推進活動に携わる現場のみならずとの強固な絆です。読

公益社団法人 読書推進運動協議会 2025年度役員構成

順不同・敬称略

会 長	野間 省伸	日本書籍出版協会 (講談社社長)
副 会 長	奥村 景二	日本出版取次協会 (日本出版販売社長)
同	植松 貞夫	日本図書館協会 (同理事長)
常務理事 (財務委員長)	田仲 幹弘	日本出版取次協会 (トーハン副社長)
同	齋藤 健司	日本書籍出版協会 (金の星社社長)
同	成瀬 雅人	日本書籍出版協会 (原書房社長)
同	矢幡 秀治	日本書店商業組合連合会 (真光書店社長)
同	野口 武悟	全国学校図書館協議会 (同理事長)
同	飯窪 成幸	日本雑誌協会 (文藝春秋社長)
理 事	森 茜	日本図書館協会 (同顧問)
同	岡本 功	日本書籍出版協会 (ひかりのくに社長)
同	小田 良次	教科書協会 (実教出版社長)
同	渡部 正嗣	日本出版取次協会 (日教販社長)
同	佐藤 潤一	日本書籍出版協会 (福音館書店社長)
同	池辺 昌和	伊藤忠記念財団 (同常務理事・事務局長)
監 事	春井 宏之	日本書店商業組合連合会 (正文館書店社長)
同	櫻井 秀美	全国学校図書館協議会 (同常務理事・事務局長)
同	鳥塚 尚子	日本国際児童図書評議会 (同事務局長)

事務局長 佐々木泰

全国の読書推進運動協議会から寄せられた推薦図書をもとに作成する、約18万部の「若い人に贈る読書のすすめ」と、約14万部の「敬老の日読書のすすめ」のリーフレットは、今年度も関係の団体を通じてお配りしていきます。学校や図書館からの問い合わせが多い

書週間事業の一環として行われている、全国の読書推進運動協議会の推薦をもとに選ばれる「全国優良読書グループ表彰」と、永年にわたって読書の普及に貢献された団体と個人を表彰する「野間読書推進賞」の顕彰事業は、関係団体や各道府県の読書推進運動協議会との緊密な協力関係のもとに推進しています。

全国的読書推進運動協議会から

のは、積極的に活用されている表れと思います。
2025年3月末に『2023年度 全国読書グループ総覧』を刊行しております。本総覧は全国の読書グループの実態を記録した、類例のない資料としての評価を頂戴しており、公共図書館および類縁機関、関係者、司書課程を有する大学などに配布して、ご活用いただきます。

機関紙「読書推進運動」は、これまでと同様に事業の紹介、関係団体・機関のニュースを中心に紙面づくりを心掛けます。「優良読書グループのあゆみ」やこれまでの野間読書推進賞受賞者の活動など、読書推進運動の現場を積極的

に紹介してまいります。
ホームページでの「読書週間」「こどもの読書週間」のしおり、ポップなどの素材データの配信も好評をいただいております。さらに魅力ある素材の提供に取り組んでいきます。前述の「X」と、不定期で実施するクラウドファンディングも、読書推進運動のさらなる認知につなげていきたいと考えています。

なお、年々ポスター、リーフレットの需要が高まる一方、昨今の物価高騰により、印刷費や郵送料など事業に要する経費も上昇してきております。読書推進事業の継続性を維持するために、デリバリー方法の見直しなども含め、経費の



2025年の「こどもの読書週間」ポスター

効率的な運用を心掛けてまいります。
現在40道府県にそれぞれの読書推進運動協議会があり、読書推進運動協議会のさまざまな事業を行っていくにあたり、連携を強

め、多大な協力をいただいています。しかし、読書推進運動協議会のない都府県が、7つあります。こうした都府県にあらためて働きかけ、事業の活性化をはかっています。

公益社団法人 読書推進運動協議会 2025年度事業		
名 称	期 間	内 容
2025 第79回 読書週間	10月27日 ～ 11月9日 (14日間)	・標語とイラストを募集、標語選定事業委員会とイラスト選定事業委員会にて決定し、ポスター約5万枚を製作 ・雑誌広告を作成。日本雑誌協会を通じ、雑誌出版社に掲載協力を要請 ・道府県読進協、公共図書館、小・中・高の学校図書館、書店、会員社、マスコミなどへポスターを送付。掲出を要請 ・「文字・活字文化の日（10月27日）」「BOOK MEETS MEXT」との連携 ・全国優良読書グループ表彰の実施 ・道府県読書推進運動協議会へ行事補助金贈呈。行事報告を要請し、機関紙別冊に掲載
2025 第67回 こどもの読書週間	4月23日 ～ 5月12日 (20日間)	・標語を募集、標語選定事業委員会にて決定し、ポスター約5万枚を製作 ・道府県読進協、公共図書館、小・中・高の学校図書館、書店、会員社、マスコミなどへポスターを送付。掲出を要請 ・「子ども読書の日（4月23日）」「上野の森 親子ブックフェスタ」と連携 ・道府県読書推進運動協議会へ行事補助金贈呈。行事報告を要請し、機関紙別冊に掲載
第55回 野間読書推進賞	贈呈式は 11月7日	・道府県読書推進運動協議会、公共図書館、都道府県教育委員会、関連団体などに受賞候補者の推薦を依頼 ・事業委員会を経て、選考委員会で受賞者を決定 ・読書推進運動に功績があった団体および個人を顕彰（2団体2個人が基本） ・贈呈式は「読書週間」期間中に開催
2025 敬老の日 読書のすすめ	敬老の日を 中心に	・高齢者を対象とした選定図書目録のリーフレットを約14万部を製作 ・道府県読書推進運動協議会、公共図書館、書店、会員社などへ送付
2026 若い人に贈る 読書のすすめ	1月～3月	・新成人、高校、大学の卒業生を対象とした選定図書リーフレットを約18万部を製作 ・道府県読書推進運動協議会、公共図書館、高校・大学の図書館、書店、会員社などへ送付
機関紙 『読書推進運動』	毎月	・機関紙『読書推進運動』を毎月発行するほか、別冊付録を年2回発行 ・発行部数 約5500部 ・道府県読書推進運動協議会、会員社、公共図書館、関係団体などに送付
公式ホームページ 協議会 SNS (X)	毎月2回更新 (Xは随時)	・団体情報の発信 ・機関紙バックナンバーの掲載 ・図書館、学校、書店の展示用に、各種事業のポップ・しおりなど新規素材のデータ配信を行う ・会員社、公共図書館、関係団体などとのコミュニケーション強化
受託、共催、後援、協賛		・「子どもの読書推進会議」の事務局を担当 ・「伊藤忠記念財団」の文庫助成事業の受託 ・関連団体と読書推進事業を後援、協賛、協力

■日本児童文学者協会 各賞贈呈式

子ども、そして大人にも響く
作品が受賞

5月30日(金)、一般社団法人 日本児童文学者協会が主催する「協会文学賞」の贈呈式・表彰式が出版クラブホール(東京都千代田区)において行われた。

前年に出版された創作単行本のベスト1を選ぶ「第65回 日本児童文学者協会賞」には、いとうみくの『真実の口』(講談社)が選ばれた。中3のとき迷子の幼児を保護した3人が高校生になって、もしかしたらあの子は迷子ではなかったのではという疑問を持つ。真実を求めて模索する3人を通して、高校生が大人社会に関わっていく姿を描く力作である。

3冊目の著作までを対象とする「第58回 日本児童文学者協会新人賞」は、奈雅月ありすの『ロボットのたまごをひろったら』(ポプラ社)、秋元里文の『月にすっぴん』(四季の森社)の2作品が受賞。ロボットを守ろうとする子どもたちの冒険物語と、著者初めての詩集がそれぞれ高い評価を受けた。中堅・若手の詩人のすぐれた詩集に贈られる「第29回 三越千



花束を手に記念撮影に応じる
今年の受賞者のみなさん

夫少年詩賞」は今回は該当作がなかったが、特別賞として、イイジマヨシオの『木のなかの時間』(銀の鈴社)が選ばれた。草花や木、虫や人や空を通して「時間」を詩として表現する作品である。

藤田のぼる理事長による賞の贈呈、受賞作品を刊行した出版社担当者への感謝状贈呈、受賞者への花束贈呈、そして受賞のみなさんによるご挨拶と、セレモニーははなやかに進行した。

引き続きフロアを移して祝賀の会となり、多くの児童文学関係者が交流の場を持った。

■日本児童文芸家協会 創立70周年

人気作品、新作童話も展示！
70年の歩みを紹介

一般社団法人 日本児童文芸家協会は、創立70周年を記念し、「創立70周年記念展覧会」きようを、あしたを、書いていく」を東京都千代田区神保町のブックハウスカフェで開催する。会期は8月20日(水)～26日(火)。

展示内容は、
・協会の歩み「これまでの歴史をパネルで紹介」
・70字童話「会員有志が書いた

70文字のショートショート童話90作のパネル展示

・平和を願う朗読会「平和を題材とした作品の紹介と朗読会」(23日(土)、24日(日)のみ開催)。また、故漆原智良 同協会顧問の平和作品も展示

・協会の本「同協会が企画・編集した『謎解きホームルーム』シリーズ、『もつと！ よんで！ おはなし絵本』、『ひみつの相関図ノート』

などの紹介

・広介の世界「初代会長・浜田広介さんの「浜田広介記念館」(山形県高島町)と、優れた幼年童話を顕彰する「ひろすけ童話賞」の紹介

・人気作品「同協会会員の著作より、ロングセラー図書を紹介」
展覧会内容、最新情報は、同協会のホームページ(<https://jdoubungei.jp/>)で確認できる。



日本児童文芸家協会 QR コード

■NPOブックスタート 全国研修会

ブックスタート事業の導入、
継続を目指す人たちを対象に

NPOブックスタートは、「ブックスタート全国研修会2025 in 宮城」を9月9日(火)13時～16時に、東北学院大学土樋キャンパス内ホワイ記念館(宮城県仙台市)で開催する。

テーマは「赤ちゃんの笑顔のために私たちができること」みんなで育む地域のウェルビーイング」。対象は、ブックスタートを実施または実施検討中の自治体職

員やボランティアなど。

プログラム

①ブックスタートの「今」と「これから」報告者「NPOブックスタート 全国の事例をもとに、ブックスタートの継続と充実に求められる視点を考える」
②事例報告 報告者「宮城県石巻市生涯学習課、福島県二本松市子育て支援課 ブックスタート歴15年以上の自治体より、実施の様

子や工夫、運営方法などを紹介
③グループワーク 参加者同士で意見交換
④質疑応答

参加費は無料。参加には事前の申し込みが必要(締切8月26日(火)、先着順)。申し込み方法、プログラム内容など詳細はNPOブックスタートのホームページ(<https://www.bookstart.or.jp/>)を確認ができる。



NPO ブックスタート
全国研修会
QR コード

優良読書グループの歩み (7)

2024年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。

(順不同)

読み聞かせボランティア
あゆみらい

代表者 横田 京子

福島県岩瀬郡鏡石町

〈推薦〉
福島県立図書館

私たちはおはなしグループは、「未来に向かって歩んでいこう」ということで、「あゆみらい」と名称を決定しました。

「あゆみらい」は1998年6月、鏡石町図書館開館に向けて、1996年11月に町教育委員会から「読み聞かせボランティア」の募集により集まったグループです。

集まったメンバーで、近隣の読み聞かせグループさんや教育委員会主事の酒井先生や司書の菅野さんたちに教をいただきながら、開館に向けて備えました。

そして、「あゆみらい」は、子どもたちに読書の喜びやおはなしを聞く楽しさを知ってもらうため

に勉強し、自分たちも楽しく活動することを目的とし、主たる活動拠点は図書館とし、依頼があれば出向もありとしてきました。

実践にあたり、①子ども向けなので多少の声色はつける ②各月の館内ではおはなし会時には、借りていけるように特別のもの以外には、館内の本を利用する ③夏と冬には「スペシャル」と称して各月にはできないブラック・ホワイ トパネルシアターや工作や手品やちよつとした劇的なものなど趣向を凝らした演目もする、また、図書館の方にもひとつ参加してもらう、の3点を念頭に置き、活動してきました。

現在は活動資金として、町教育委員会より図書館内での活動に対して、報酬がいただけるようになったので、2012年から始まった「町たんぼアート」のテーマの昔話を、出版社の許可を得て、業者に拡大コピーしてもらったもので、大型紙芝居を作れるようになりまし

図書館以外での活動は、幼稚園・保育所・小学校・老人施設・障がい者施設・特別支援学校・老人会・書店内・ご縁があつてのいわきの小学校でのおはなし会など、どれも懐かしう楽しい思い出です。

2023年は、「図書館開館25周年」そして、私たち「あゆみらい」も結成・活動26年(コロナ禍休止期間4年)。これを機に館内のおはなし会は、当面は夏・冬・スペシャルのみの活動とし、依頼分については、つど検討するという

ことで活動再開となりました。会員の高齢化などの問題もありますが、この活動を通して、子どもたちに本に対する興味や関心を持つてもらい、私たち会員も楽し



夏休みスペシャル

2024.7.20

準備万端で臨む、図書館でのスペシャルおはなし会

く活動が続けられたらと思います。

高南読書会

代表者 渡辺きみ江

長野県須坂市

〈推薦〉
長野県読書推進運動協議会

「高南読書会」は、長野県須坂市の南部に位置する農村地帯で活動している読書会です。1977年、1冊の本を回し読みする「母親文庫」活動では飽きたららない、若い母親たちが始めました。会員14人は、みんな、農家の中心的な働き手として農作業に従事し、家事もこなし、そのうえで、本を読みたいとの一念で集まりました。

創設時から2009年の30年間は、『万葉集』などの日本古典文学を読みました。2010年からは、森鷗外『舞姫』などの日本近代文学が中心でした。近松門左衛門の『曽根崎心中』を読んだあとは、本物の歌舞伎鑑賞のため歌舞伎座へ出かけ、よい思い出になりました。

2018年には、40周年記念として、『高南読書会のあゆみ』を発行しました。現在もご指導いた

会の記録がつまった40年
記念誌は会員の誇り



だいています、5代目講師の田子修一先生(元蕨高等学校国語科教師)の熱心なリードの賜であり、完成した本を手にしたときは、大きな達成感につつまれました。

田子先生は、本を読み進めるにあたり、関連資料をたくさん用意くださるので、私たちの興味や理解がより深まります。ときには雑談に発展し、日ごろの愚痴や笑いもこぼれ、和気あいあいの楽しい会です。

47年間で、読書会に参加した会員は47人です。発足時から、会員自身と家族に配慮し、農繁期には休会する方法で、息の長い活動が続きました。最近では、みんな、高齢となって、亡くなられたり、

病氣療養、家族の介護などの理由で離れざるを得ない会員もあり、2021年から4人での活動となりました。

その後、さらに、4人それぞれに休会せざるを得ない状況が生じました。伴侶を亡くした会員は、休会中も、長年続けてきた読書と短歌によつて、大きな喪失感を埋めてきたといえます。同じ境遇に陥った私も、本のなかで出会う異なる生き方に励まされ、ひとりの寂しい時間が早く過ぎました。

これから、新規会員を迎えて、再スタートいたします。今回の表彰は、47年前のみなさんの熱い思いを引き継ぎ、途切れることなく続けてきたことへの褒美と、うれしくちようだいしました。ありがとうございます。

吉舎おはなしの会

りんく

代表者 福永三和子

広島県三次市

〈推薦〉
広島県読書推進運動協議会

会の結成は、学校週5日制がはじまった1994年。育児サークルのメンバー3人で、他の地域の図書館では「おはなし会」をやっ

ている、でも吉舎町にはない、「ないなら作るう」ということで、始めました。

しかし当時、吉舎町公民館図書室は平日しか開いておらず、第2土曜日に学校が休みになつても使えない、おはなし会ができない、どうすればよいかと知恵を絞り、教育委員会と交渉するところからのスタートでした。その後、図書室に来ることができるとは限られていて、待つよりは出かけていくと、小学校や保育所、ケアハウスなどに活動の場を広げました。

また、三次市との合併とともに、公民館図書室は図書館となり、蔵書も充実、司書も配置されました。現在は、毎月例会を開催し、三次市立吉舎図書館で「ちいさいさんのおはなし広場」と「おはなし広場」、吉舎町内の各小学校、保育所での定期的なおはなし会や、放課後児童クラブ、イベント、要望のあるところなどへ出向いてのおはなし会をしています。

30年の間には、メンバーが減つたり、行きづまりを感じたりすることもありました。そのたびに、図書館や教育委員会、地域、三次おはなしボランティアネットワークなどの力を借り、みんなで工夫しながら乗り越えてきました。

定期的に小学校や保育所に出かけていると、子どもたちも私たちの顔を覚えて、地域で「りんくさん」と気軽に声をかけてくれます。私たちも「おはよう」「おかえり」と声をかけやすくなります。

また、こんなエピソードもあります。卒業式を翌日に控えた中学3年生数人が、リハールサル帰りに「りんくさんの時間つて、なにげに楽しかったよの(編集部注Ⅱ「よの」は地域特有の言い回し)」と図書館で話しており、「ねえ、ぼくらもりんくさんになれる？」と職員の方に聞きました。職員は「もちろん。になれるよ」と答えたそうです。高校入試合格発表前、宙ぶらりんの中で、ふと小学校のおはなし会を思い出してくれたたのでしょう。こんな子どもたちとのふれあい、共に生きている喜びが、活動のエネルギーになります。

「りんく」は「つながり」。本と人、人と人。これからも「すべての子どもたちが本と親しむ機会づくり」の活動を、持てる力で続けていきたいと思っています。

「ABSCレポート」

レポート4号を発行

一般社団法人 日本出版インフラセンターの下部組織である「アクセシブル・ブックス・サポートセンター (ABSC)」は、『ABSCレポート 第4号』を6月20日に発行した。

第4号では、視覚に障がいを持つ著者との編集作業の様子や、より多くの人が利用しやすい電子書籍の形式の模索、テキストデータ請求権を付けた出版物の発行の可能性と課題など、出版・編集サイドからの試みが紹介されている。

また、国立国会図書館より、デジタル化資料の全文テキストデータ提供サービスが実現するまでの課題とその解決の過程、現在の利用状況について紹介されている。

第4号(紙版)を希望の方は、ABSCホームページ (<https://absc.jp/>) より問いあわせ可能だが、在庫僅少とのこと。また、準備ができ次第、TTS、マルチメディアDAISY、点字データに対応した形で

順次ホームページで公開される。



ABSC ホームページ
QR コード

事務局よりお知らせ

●『読書推進運動』お届け時期について

機関紙『読書推進運動』次号693号(2025年8月15日号)は、当事務局、印刷会社、発送業者の夏期休業により、8月20日出来、それ以降の発送となります。

●読書推進運動協議会 事務局 夏期休業のお知らせ

8月12日(火)～15日(金)
その間にメール・ファックスなどいただいたお問い合わせは、18日以降、順次お答えいたします。

●敬老の日読書のすすめ「書目 およびリーフレットについて

機関紙『読書推進運動』693号での発表に先立ち、当協議会ホームページにて7月22日(火)より書目リストを掲載いたします。展示やフェアなどの準備にご活用ください。リーフレットは例年同様、8月上旬に出来予定です。

みなさまにはご迷惑をおかけいたしますが、ご了承のほど、どうぞよろしく願います。

■ちひろ美術館夏の展覧会

戦後80年の今、
絵本を通して平和と戦争を考える

ちひろ美術館・東京(東京都練馬区)は、7月26日(土)～10月26日(日)の期間、展覧会「戦後80年ちひろと世界の絵本画家たち 絵本でつなぐ『へいわ』」を開催する。

この展覧会は、今年春に安曇野ちひろ美術館(長野県松川村)で開催されたもの(一部、作品を変え)。自身の戦争体験をふり返り、二度と戦争を繰り返さぬよう、子どもたちの幸せが脅かされぬよう

願ったいわさきちひろの絵本原画のほか、茂田井武、赤羽末吉、長新太たちの作品、『絵で読む広島』の原爆『ねんどの神さま』『ひとのなみだ』の原画、世界の絵本画家たちの作品がメッセージとともに展示される。また、戦後出版された絵本より、戦争と平和について考える絵本約15冊も紹介する。

会期中には、8月3日(日)「アーサー・ビナード講演会」、8月30

■沖縄県子ども本研究会 全国大会開催へ

参加者受付中！
2025 沖縄大会へめんそーれ

一般社団法人 沖縄県子ども本研究会は、「沖縄県子ども本研究会 全国大会」を10月11日(土)・12日(日)に、沖縄県市町村自治会館(沖縄県那覇市)で開催する。

この大会は、例年、一般社団法人 日本子ども本研究会が開催する「日本子ども本研究会 全国大会」の第57回大会でもある。テーマは「未来をひらく子どもと本―沖縄から共に紡ぐ、平和と

豊かな子どもたちの明日」。実行委員会では昨年にプレ講座「第48期子ども本の学校」も開催し、準備を着々と進めてきた。

基調報告は鎌田佐多子さん(沖縄女子短期大学 元学長、沖縄県子ども本研究会顧問)、記念講演は長谷川義史さん(絵本作家、閉会講演は代田知子さん(日本子ども本研究会会長)。そのほか、「子どもの読書環境」「沖縄

日(土)「Silent Fallow」上映会、9月14日(日)対談 武田美穂×松本猛、9月28日(日)内田麟太郎講演会」を予定。いずれも事前申し込みと参加費が必要(入館料は別)。上映会以外は、オンライン参加者も募集する。

なお、安曇野ちひろ美術館では8月31日(日)まで「ちひろのいっせんかたち」でつなぐ20年。魅惑のチョウ、シンタ展を開催中。講演会情報、開館スケジュールなどの詳細は、ちひろ美術館ホームページで確認できる。

●ちひろ美術館
<https://chihiro.jp/>

の昔話」「沖縄戦と平和を考える」など6つの講座、「平和を伝え平和を学ぶ」「沖縄の植物と伝承文化」「特別講座『アニメシオンのいま・これから』」など6つの分科会、沖縄の伝統芸能を体験できる交流会が用意されている。

参加には参加費と事前の申し込み(8月31日締め切り)が必要。沖縄県子ども本研究会ホームページ(<https://ehonken.okinawa.jp/>)と、各プログラムの詳細の確認と、参加申し込みができる。



全国大会申し込み用
QRコード

事務局報告(6月)

- ・2日＝活字文化議員連盟による「神保町ナイトウォーク」取材
- ・3日＝2025年度 子どもの読書推進会議第1回幹事会
- ・3日＝「2025 造本装幀コンクール」審査会 出席
- ☆6日＝機関紙「読書推進運動」691号 入稿
- ☆9日＝機関紙「読書推進運動」691号 責了
- ☆10日＝「読書週間ポスターイラスト」募集締め切り
- ☆13日＝機関紙「読書推進運動」691号 出来
- ☆20日＝2025「敬老の日読書のすそめ」掲載書目決定
- ・20日＝伊藤忠記念財団「子ども文庫助成事業」応募締め切り
- ☆25日＝2025年度 定時総会
- ☆25日＝2025年度 第2回 理事會
- ☆27日＝2025 第2回 常務理事會 案内発送
- ☆30日＝2025年 第67回 こどもの読書週間「行事報告 締め切り」



読書推進運動
協議会 X
(旧 Twitter)

ザ・キャビンカンパニー
大絵本美術展
童堂賛歌
6月21日～9月7日
滋賀県立美術館

●編集部&事務局の
ひとこと

●昨年4月のクラウドファンディングでこまめな情報発信の必要に迫られ、「炎上したら怖いから絶対に手を出さない」と敬遠していたX(旧Twitter)の「中の人」となって、1年ちょっと。自分なりのルールを設定して、なんとか運営しています。

●都道府県立図書館の投稿のリポスは、そのルールのひとつ。さすがにすべての投稿をチェックし、リポスはできませんが、できるときは、ユニークなイベント、季節や時事関連の展示風景をご紹介しますようにしています。夏のこの時期、きれいに彩られた七夕の展示や、子どもたちの夏休みに向けての展示・イベントなど楽しい投稿があれば、戦争について考える展示・イベントも各地で開かれています。今年の夏は、7月の参議院選挙に向けて、選挙や政治について考える図書展示も目立っているのが特徴でしょうか。

●「図書館の力の源泉となり、図書館の個性・魅力を形成するのは、『良質な蔵書』です。そして、どの本を自館の蔵書とするか、自館の蔵書を駆使し利用者の方々のご希望・ご要望にいかにお応えするか」を担うのは、一人一司書です。」7月3日に富山県立図書館が、新任職員対象の「図書館実務講習会」(富山県図書館協会共催)について投稿した文章をどう利用者につなげるのか、司書・職員のみならず日々研鑽を積んでいるからこそ。建物や蔵書数の魅力だけではなく、図書館の力と誇りを感じる投稿でした。(伸)